

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第17集

市内遺跡発掘調査報告書1991
(1月~3月)

1992.3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第17集

市内遺跡発掘調査報告書1991

(1月～3月)

1992.3

佐久市教育委員会

例 言

1 本書は平成2年度国庫補助事業、市内遺跡発掘調査事業にともなう埋蔵文化財の調査報告書の補足版で、平成3年3月に発行した『市内遺跡発掘調査報告書1990』で収録できなかった、平成3年1月～3月までの4遺跡の試掘・立会い調査結果を掲載してある。

2 事務局及び調査団（平成3年度）

（事務局） 佐久市教育委員会埋蔵文化財課・佐久埋蔵文化財調査センター

教 育 長 大井季夫 教 育 次 長 奥原秀雄

開発公社事務局長 佐々木正泰 課 長 兼 所 長 上原正秀

管 理 係 桜井牧子（係長）

埋 蔵 文 化 財 係 草間芳行（係長）・高村博文・林幸彦・三石宗一・須藤隆司・小林眞寿・羽毛田卓也・竹原学

（調査団）

団 長 黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

副 団 長 藤沢平治（佐久市文化財審議委員）

調査担当者 高村博文・林幸彦・三石宗一・小林眞寿・羽毛田卓也・竹原学

調 査 員 香山優子

3 本書の編集は高村が行い、執筆は各遺跡の担当者が担当し、報告書作成作業の図面作成等を香山優子が行った。

4 本書及び関係資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

目 次

1	市内遺跡調査概要	1
2	試掘調査結果報告	5
	(1)長七呂遺跡群下人林遺跡	6
3	立会い調査結果報告	9
	(1)周防畑遺跡群2	10
	(2)中原遺跡群2	11
	(3)深堀遺跡群1	13

1 市内遺跡調査概要

平成2年度から、国庫補助金を受けて個人及び民間の開発に対する埋蔵文化財の保護措置を実施し、平成2年7月から12月までの試掘・立会い調査結果の報告は、平成2年3月刊行の『市内遺跡発掘調査報告書1990』に収録した。しかし、国庫補助金事業を単年度内に報告書を作成し、提出するためには、1～3月までの調査結果を掲載できないという矛盾を生じた。そのため、平成3年度から、調査結果の報告書は次年度に刊行することによりこの矛盾を解決することができたため、平成2年1月～3月までの調査結果を『市内遺跡発掘調査1991（1月～3月）』として補足し、平成2年度内における調査結果をすべて報告書に記録保存することとした。

平成2年度の個人及び民間関係開発に対する試掘調査は、7遺跡、調査対象面積23,363㎡を実施した。7遺跡のうち遺構が検出され原因者に費用負担の協力を求め発掘調査を実施した遺跡は石並城跡、野馬久保遺跡の2遺跡があり、国庫補助金により試掘調査を行った遺跡は、協議の際トラブルも少なく、埋蔵文化財保護に対する民間の協力が得られるというメリットがあり、試掘調査費は基本的に保護行政側が負担して実施する必要性が痛切に感じられた。

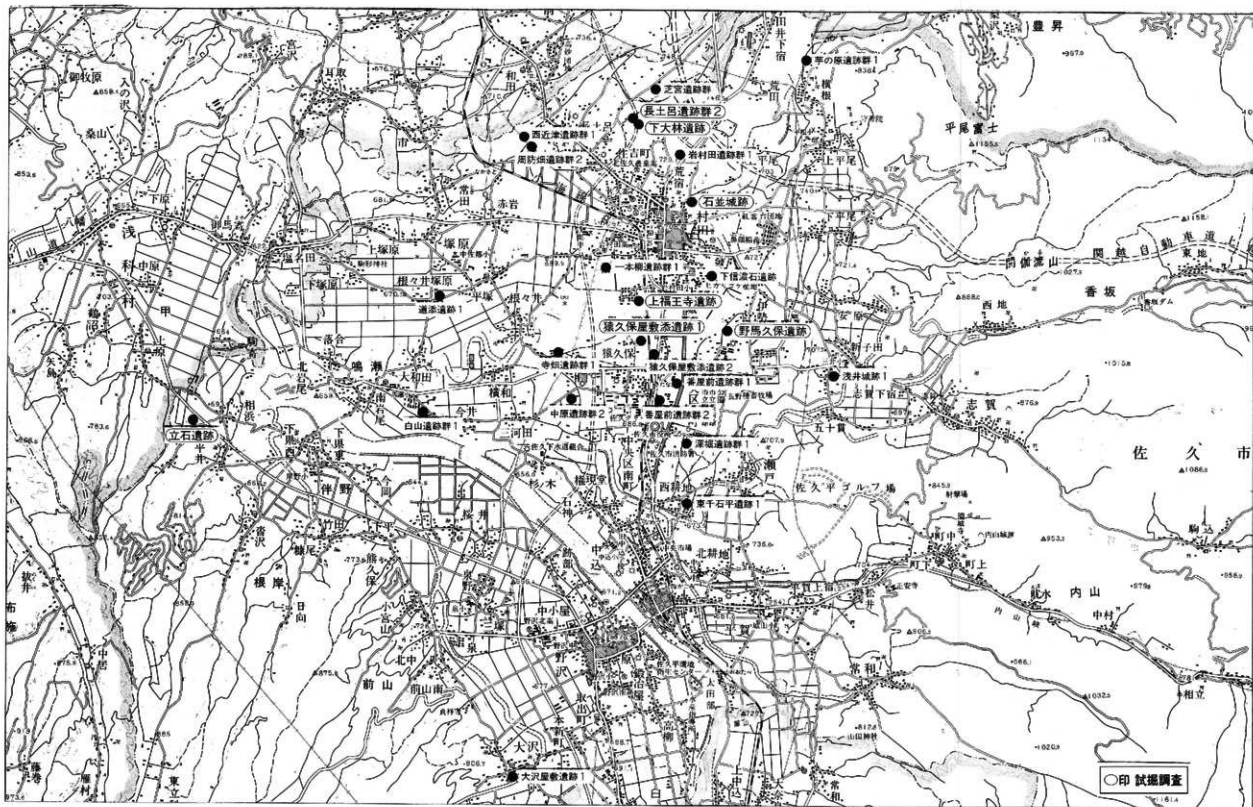
また、立会い調査は18遺跡実施し、開発面積は5,129.45㎡で平均284.97㎡であった。文化財保護法で規定している周知の遺跡に対する開発の届出を徹底することはどこの市町村でも大変困難なことであるが、法律は最低限のことを義務づけたものと考えるとき、どの開発に対しても周知の遺跡に対する開発は57条の届出を開発業者が進んでできるよう、また届出のあった遺跡に必ず専門職員が現地確認できる体制をつくりあげていくことは急務である。この意味で、今回のような市内遺跡緊急発掘調査国庫補助金の予算額を増やすことは、地方行政にとって大変価値のある事業といえる。

平成2年度個人・民間関係試掘調査遺跡一覧表

No	遺跡名	原因者	所在地	原因	開発面積	調査期間	担当者
1	猿久保原敷遺跡1	朝光和建设	猿久保	宅地造成	2,948.00	H2.11.5-6	高村
2	石並城跡	朝森泉建設	岩村田	宅地造成	976.00	H2.12.13-14	高村
3	長士呂遺跡群2	(株)吉田製作所	長士呂	テニスコート	700.00	H2.12.17	小林
4	立石遺跡	萩原地区土地整備組合	根岸	土地整備	2,290.00	H2.12.18	竹原
5	野馬久保遺跡	柳与志本林業	新子田	宅地造成	2,931.00	H2.12.25-26	羽毛田
6	上福王寺遺跡	柳小林建設	岩村田	宅地造成	11,755.00	H2.4.16	林
7	下大林遺跡	柳武重商會	長士呂	資材置場	1,763.00	H3.3.13	羽毛田
					計	23,363.00	
					平均	3,337.57	

平成2年度個人・民間関係立会い調査遺跡一覧表

No	遺跡名	原因者	所在地	原因	開発面積	調査期間	担当者
1	岩村田遺跡群1	井田雅男	岩村田	貸し店舗	158.40	H2.10.5	小山
2	番屋前遺跡群1	萩原廣太郎	猿久保	共同住宅	501.00	H2.10.22	小山
3	番屋前遺跡群2	柳沢 昇	中込	共同住宅	491.90	H2.11.8	小山
4	大沢屋敷遺跡1	木内 徹	大沢	個人住宅	74.52	H2.8.27	高村
5	寺畑遺跡群1	森泉辰男	根々井	個人住宅	79.33	H3.1.9	助川
6	東千石平遺跡群1	土屋今朝美	瀬戸	個人住宅	54.11	H2.9.22	高村
7	一本駒遺跡群1	籠谷恒男	岩村田	個人住宅	70.38	H3.1.8	三石
8	信濃石遺跡1	柳石井商會	岩村田	宅地造成	1,174.00	H2.10.24	小山
9	白山遺跡群1	柳信濃ペンディング	今井	事務所兼倉庫	275.40	H2.11.21	高村
10	道部遺跡1	神岡信夫	塚原	個人住宅	48.13	H2.12.18	翠川
11	西近津遺跡群1	川手歳和	長士呂	個人住宅	81.43	H2.11.8	小山
12	猿久保原敷遺跡2	柳朝倉	猿久保	資材置き場	1,048.00	H2.12.8	高村
13	芋の原遺跡群1	渡辺圭司	横根	個人住宅	117.59	H2.12.9	高村
14	芝宮遺跡群2	森泉 実	長士呂	個人住宅	74.97	H2.12.14	翠川
15	浅井城跡1	中野 暹	新子田	資材倉庫等	62.21	H3.1.10	竹原
16	周防畑遺跡群2	カウベルエンジニアリング㈱	長士呂	工場建設	198.00	H3.2.9-10	高村
17	中原遺跡群2	磯貝幹雄	三河田	個人住宅	72.08	H3.2.11	高村
18	保根遺跡群1	田中 馨	瀬戸	共同住宅	568.00	H3.3.29	羽毛田
					計	5,129.45	
					平均	294.97	



市内道路調査遺跡位置図 (1 : 50,000)

2 試掘調査結果報告

(1) 長土呂遺跡群下大林遺跡

所在地 佐久市大字長土呂字下大
林546,547-1
調査原因者 柳武重商会
開発事業名 資材置場造成工事
調査期間 平成3年3月13日
面積 1.763㎡
調査担当者 羽毛田卓也



下大林遺跡位置図 (1 : 10,000)

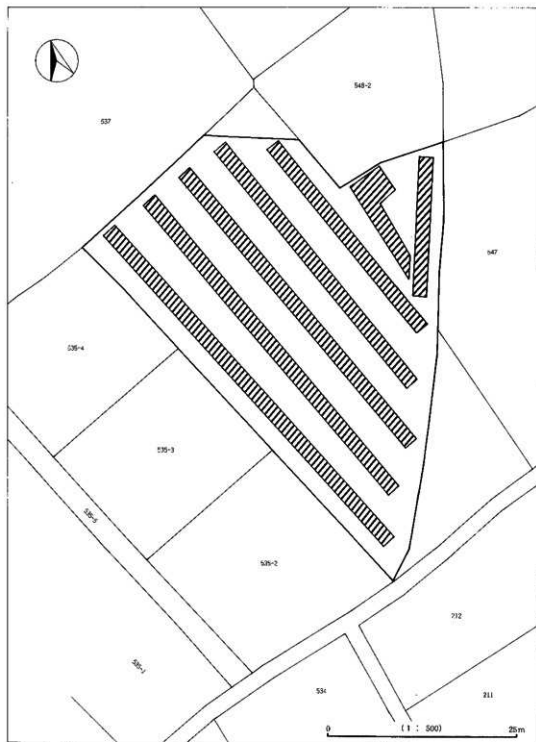
経過と立地

下大林遺跡は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、標高720m内外を測る。昭和63年度には隣接する上大林遺跡・下型端遺跡が調査され、古墳時代～奈良時代の集落が確認されている。

今回、柳武重商会が行う資材置場造成工事に伴い、本遺跡の破壊が余儀なくされ、緊急に試掘調査をする必要が生じた。

調査結果

調査区の南北方向に7本の試掘トレンチをいれた結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。



下大林遺跡トレンチ設定図



遺跡近景（北方より）



トレンチ設定状況（東方より）

3 立会い調査結果報告

(1) 周防畑遺跡群 2

所在地 佐久市大字長土呂字一ツ
長田1740-4
調査原因者 カウベルエンジニアリン
グ株式会社
開発事業名 工場建設
調査期間 平成2年2月9・10日
面積 198㎡ (264㎡)
調査担当者 高村博文



周防畑遺跡群 2 位置図 (1 : 10,000)

経過と立地

周防畑遺跡群 2 は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、御代田方面から東西に伸びる田切り地形の終末部分で、東方の周防畑遺跡群、西方の西近津遺跡群に挟まれた小田切り地形に存在し、昭和63年度佐久埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施した森下遺跡の続きになる。標高は708 m付近を測る。

今回、カウベルエンジニアリング株式会社による工場建設に伴い、事前に立会い調査を実施することとなった。

調査結果

工場基礎部分に、幅 1 m30cm、深さ 1 m65cmの溝を掘り下げたが、遺構・遺物の検出はみられなかった。



道跡近景（南方より）



基礎工事部分（北方より）

(2) 中原遺跡群 2

所在地 佐久市大字三河田字橋場

397-6

調査原因者 磯貝幹雄

開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成33年2月11日

面積 72.08㎡ (386㎡)

調査担当者 高村博文



中原遺跡群 2 位置図 (1 : 10,000)

経過と立地

中原遺跡群 2 は、佐久市大字三河田地籍に所在し、標高 685 ～ 687 m 付近を測る。遺跡群は千曲川・湯川・滑津川に分断された俗称中込原台地のほぼ中央、滑津川寄りに位置する。

中原遺跡群内では昭和62・63年度に梨の木遺跡の発掘調査が佐久埋蔵文化財調査センターで実施され、中世の遺構・遺物が検出されている。中原遺跡群については佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文時代から中世の遺物が採集されている。

今回、磯貝幹雄氏による個人住宅の建設に伴い立会い調査を実施することとなった。

調査結果

宅地造成部分に40cmの埋め土を行ったため、地下遺構に影響がないものと考えられる。



遺跡近景 (西方より)

(3) 深堀遺跡群 1

所在地 佐久市大字瀬戸字残塚

1407-5

調査原因者 田中 馨

開発事業名 共同住宅造成工事

調査期間 平成3年3月29日

面積 195.37㎡ (568㎡)

調査担当者 羽毛田卓也



深堀遺跡群 1 位置図 (1 : 10,000)

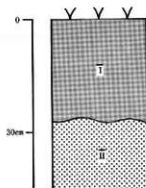
経過と立地

深堀遺跡群は志賀川と田切りに挟まれた標高 680～690 m の台地上に展開する遺跡群である。佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文時代～中世にかけての包蔵地で、昭和40年遺跡群南西端の調査で弥生時代の集落が検出されている。

今回、田中馨氏が行う共同住宅造成に伴う立会い調査地点は標高 688 m 内外で、本遺跡群の北側中央の微高地上にあたる。

調査結果

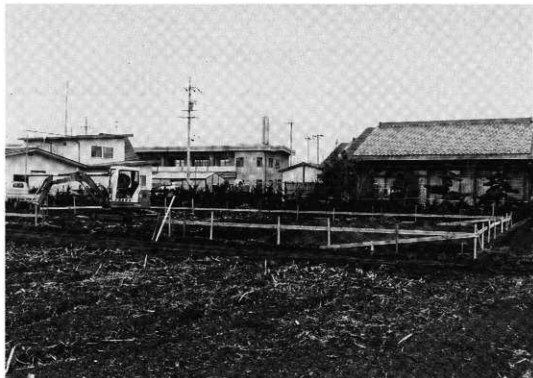
建物の基礎工事部分に 2 m × 2 m の試掘坑を 4 箇所あけたが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



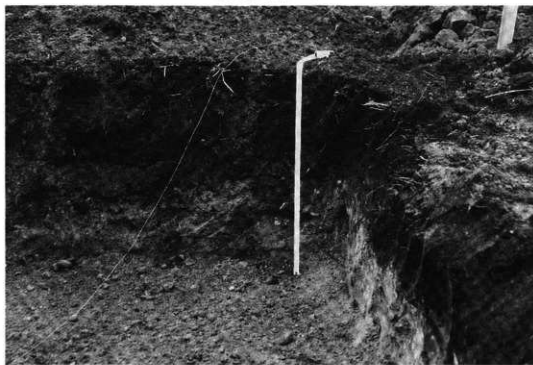
I層 耕作土

II層 明黄褐色ローム

基本土層模式図



遺跡近景（南方より）



地層状況（南方より）

長野県佐久市

佐久市埋蔵文化財調査報告書第17集

市内遺跡発掘調査報告書1991

(1月～3月)

1992年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

印刷 株式会社 樫 (いもい)
